



社会的企業と連携し、価値を提供することが“CSRによる価値創造”

NPO・社会起業推進委員会 委員長（ヒゲタ醤油 取締役社長） 濱口敏行氏

経済同友会の問題意識

資本主義の実践にとって、経済性と社会性・人間性をより高いレベルでトレード・オンさせていくことが、極めて重要な課題である。この課題の解決に向けては、フィランソロピー、CSRと並んで、社会的企業やNPOによる社会的課題への取り組みがある。

市場主義とグローバリゼーションが投げかけた問題は、従来の政治・経済の枠組みでは解決し得ず、もっと広い解決の枠組みが要請されている。ここにNPOや社会的企業等のサードセクターの果たすべき役割があり、大きな意味での市民社会の形成が今日の課題解決に不可欠だと考えている。

パネル討議を受けて

社会的企業と一般企業では、経済性・社会性・人間性の価値のバランス、ステークホルダー間のバランスの取り方が違うと思う。そ

こを踏まえて、工夫しながら関係を築いていかなければならない。

CSRを社会貢献やコンプライアンス、環境といった狭い意味で捉える企業もまだまだ多い。だが、CSRとは哲学であり、経営そのものだと思う。そうした観点に立ち、CSRの中で企業とNPO、社会的企業の連携を考えることが重要だ。そして、連携の中から新しい価値を市場に提供することが、「CSRによる価値創造」になるのではないかと。引き続き同友会内での問題提起を行っていきたい。

Symposium report 1



NPOへの支援は資金面だけではない 企業の強みを活かした協同がある

NPO法人フローレンス 代表理事 駒崎弘樹氏

NPO法人フローレンスについて

病児保育問題を知った駒崎氏が「子育てと仕事の両立が当たり前の社会」を目指して設立。病児を医師に診せ、保護者が帰宅するまで家で預かるという、特殊なベビーシッターサービスを都内で展開している。NPO認証の取得は2004年。2005年4月からは江東区、中央区で全国初の「保険的病児保育サポートシステム」を開始した。駒崎氏は、自らが経営するITベンチャーを退社して取り組んでいる事業で、「人から感謝される仕事があった」と語る。

社会には病児保育というセーフティネットも必要だが、同時に、子どもが病気の時に安心して休める職場にしていくことも大事だ。そこで、主に中小企業を対象に、お金をかけずにワーク・ライフ・バランスを実現するためのコンサルティングを行っている。また、病児保育の問題を広く社会に訴え

ていこうと、ソーシャル・プロモーション事業にも力を入れている。

NPOをめぐる金融事情には大変厳しいものがあるが、シブサワ・アンド・カンパニーや経済産業省が新しいスキームを立ち上げるなど、明らかに風向きは変わりつつあり希望を感じている。

ただ、NPOへの支援はお金と

は限らない。フローレンスは民間企業から無償でコンサルティングやコーチングを受け、自分たちのビジネスモデルを革新することができたが、そこは互いの学び合いの場になったと思う。企業は自らの強みを使って支援する方法があるし、社会的企業とのいろいろな協同のやり方があると考えている。